

中 3 学 習 内 容

		1 時 限	2 時 限	3 時 限	4 時 限	5 時 限	6 時 限
中 3 夏 季 特 訓 合 宿	国語	各70分 ×5 コマ	古典特訓 読解	古典特訓 読解	古典特訓 漢文訓読	古典特訓 漢詩・故事成語	古典特訓 総合
	数学	各70分 ×6 コマ	一次関数の グラフと図形①	一次関数の グラフと図形②	二次関数の 求め方とグラフ	二次関数と 一次関数①	二次関数と 一次関数②
	英語	各70分 ×6 コマ	入試レベル 文法問題演習①	入試レベル 文法問題演習②	入試レベル 長文読解演習①	入試レベル 文法問題演習③	入試レベル 文法問題演習④
	理科	各70分 ×5 コマ	火山と地震	地層と大地の 変動	空気中の 水の変化	前線の通過と 天気の変化	天体の動きと 地球の自転・公転
	社会	各70分 ×5 コマ	地理小問演習 ①	地理小問演習 ②	歴史小問演習 ①	歴史小問演習 ②	総合演習

※ 上記は昨年の実施例です。クラスや進度によりカリキュラムは変更される場合があります。

《 英 語 》

合宿では、より「入試での出題」を意識した問題演習に取り組みます。その中心となるのは県立レベルの「長文読解」のトレーニングです。

入試では中学校の教科書より長く、内容も濃い長文を制限時間内に読み解かねばならず、そのため得点にも非常に差がつきやすい科目となっています。長文を効率よく正確に読むためには単語の知識だけでなく、英文の構造をきちんと理解して大意を素早く把握することが必要です。

そのため、合宿では長文読解にも役立つ分詞・関係代名詞などの「後置修飾」や、入試必須のイディオムを豊富に盛り込んだ入試レベルの文法演習を行います。『合宿杯』でもどれくらい身につけたかが問われます。この機会にぜひ集中的に取り組み、まとめてマスターしましょう！

《 数 学 》

「関数」と「図形」に絞って演習を行います。見ただけでもうダメ...と腰が引けてしまう人も多いのですが、出ない学校はない、高校入試数学の定番です。関数を得意にできるかどうかが大きな分かれ道となります。

基礎クラスではまず苦手意識を払拭するために、中2レベルの一次関数（式とグラフ・座標の関係）からくわしく解説します。さらには関数と図形の問題、等式変形、二次関数など、入試で合否を分ける問題を中心に特訓します。

応用クラスでは入試レベルの問題演習に時間をかけます。いずれも理解が完全でない場合には、自習時間に質問に応じて補習指導を行い、確実な定着を図ります。

《 国 語 》

夏季講習前期日程と連動し、古文・漢文の基本文型を習得し、語彙力・読解力のアップにも取り組みます。

古文は県立高を含むほとんどの学校で出題されていますが、苦手意識の強い人が多く、対策も手薄になりがちです。入試での配点は15点～20点を占めますので、しっかり取り組めばライバルに大きな差をつけられます。

漢文も最近の入試ではよく出題されていますが、有名な漢詩や故事成語などが題材になっていますので、比較的文意もとらえやすく、基本的な返り点さえ理解していれば確実な得点源ともなります。

いずれも短期間で得点力の向上が望める分野ですので合宿では事前の課題（古文単語・古典常識・有名文学作品など）にもとづいて授業を進め、実践的な読解テクニックを身につけてもらいます。事前の課題は『合宿杯』でも出題の中心となりますし、頭に入れておかないと授業でも苦勞しますから、必ず消化してきてください。

《 理 科 》

普段なかなかじっくり取り組みにくい「地学」分野に絞って学習します。ただ知識事項を暗記するのではなく、どんなしくみで地球が活動しているのかを体系的に学習することで理解を深め、忘れにくい知識に昇華します。

《 社 会 》

総まとめテキストを使用し、地理・歴史の総復習として小問集合500題に取り組みます。受験生として備えておくべき基本知識から、入試頻出の重要語句まで、徹底的な問題演習で語彙を増やします。

授業では1問15秒、20問を5分間で解答し、直後の解説までを1ターンとして4～5ターンくり返します。地理頻出の各種データや、歴史の年号なども扱います。



中 2 学 習 内 容

		1 時 限	2 時 限	3 時 限	4 時 限	5 時 限	6 時 限	7 時 限
中 2 夏 季 特 訓 合 宿	数 学	各70分 × 7 コマ	連立方程式の 文章題①	連立方程式の 文章題②	連立方程式の 文章題③	一次関数の グラフと式	一次関数の 利用①	一次関数の 利用②
	英 語	各70分 × 7 コマ	基本例文演習 助動詞①	基本例文演習 助動詞②	基本例文演習 不定詞①	基本例文演習 不定詞②	基本例文演習 動名詞	基本例文演習 長文読解①
	理 科	各70分 × 6 コマ	電流・電圧 抵抗①	電流・電圧 抵抗②	電流と磁界①	電流と磁界②	電流が磁界から 受ける力①	電流が磁界から 受ける力②
	社 会	各70分 × 6 コマ	地理小問演習① 資料の読み取り	地理小問演習② 資料の読み取り	歴史小問演習① 記述問題	歴史小問演習② 記述問題	入試問題に 挑戦	入試問題に 挑戦

※ 上記は昨年の実施例です。参加生の定着度などを考慮してカリキュラムは変更される場合があります。

合宿中2コース開講！

3年間の中学生生活も半ばを過ぎようとしています。来たるべき高校入試に向けて、ハッキリとした目標意識を持ち、ライバル達よりも早く有利なポジションをつくろう、という意欲あふれる中2生の皆さんにお応えて、今年度も合宿・中2特訓コースを設置しました。短期集中特訓が効果的な英数理社の4科に絞り、中2範囲の必須単元から特に苦手になっている人の多いものを集中的に扱うほか、過去の**公立高校の入試問題**を題材に、特に可否の明暗を分ける応用問題にじっくり取り組みます。受験に必要な実力、これから身につけなければならないものがどれほどあるか、体感してもらいます。自信のない生徒には個別に対応して弱点特化メニューを設定し、苦手単元を克服します。受験に挑む中3生の姿勢も大きな刺激になることでしょう。多くの皆さんの参加を望んでやみません。

《 英 語 》

中2の学習内容は入試でもそのまま出題されることの多い単元が多く、特に「助動詞」「不定詞」「動名詞」そして「比較」の4つは入試英語の最重要単元といっても過言ではありません。合宿では、このうち3つの単元を徹底して演習します。これらは覚えることが多く複雑で、日本語ともまったく構造が異なるという点で勉強しづらく、英語が苦手科目になってしまう単元とも言えます。逆に言えば、克服することで英語の本質的な理解は深まります。合宿では基本例文を徹底して身につけ、単語を置きかえたり、組み合わせる複雑な文を作れるようになります。また長文の中でこれらがどのように用いられているかを意識して読み、単語の直訳に頼らない速読速解のテクニックを学びます。

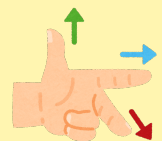
《 数 学 》

連立方程式と一次関数の応用問題を集中的に扱います。方程式では苦手な人の多い文章題を「速さ」「割合」「食塩水」などのパターンごとに採り上げ、図表を用いた出題内容の整理や式の立て方を特訓します。

また「関数」は出題されない学校はない、高校入試での最重要単元です。2年生のうちに式とグラフの関係を完全に把握し、与えられた数値から自在に式を求めたりグラフを描いたりする力を身につけましょう。合宿では苦手になっている生徒を対象に一次関数の基礎を固めるほか、意欲ある生徒には一次関数を応用した文章題や、図形上の点の移動と組み合わせた問題、さらには入試レベルの関数の問題で必ず出題される座標と面積の問題や「等積変形」の基本についても扱います。

《 理 科 》

せっかくの短期集中特訓ですから、生徒の皆さんから「ややこしい」「よくわからない」というリクエストの多い単元を扱いましょう。ズバリ「電流」「磁界」です。一見難しそうですが、法則性をきちんと理解して、様々な条件の下でそれを正しく当てはめることができれば必ず正解にとたどり着くことができます。「なんとなくニガテ」で済ませてしまわず、合宿を機に得意分野に変えてしまいましょう！



《 社 会 》

問題演習とその解説を軸に、覚えるべきポイントとその背景をまとめていきます。社会は暗記科目とは言われますが、バラバラに頭に詰め込まれたままでは、テストで正しく引き出すことができません。なぜそうなのか、その結果どうなったのか、原因・理由や流れを意識して揺るぎのない知識を身につけましょう。地理頻出のさまざまな資料・グラフ・表などの読み取りや、出来事の前後関係の把握や時代ごとの整理に有効な歴史の年号なども扱います。

小6学習内容

少人数指導の利点を活かし、各科目の重点単元を中心に、個別の弱点補強に取り組みます。習熟の必要な算数に多くの時間を配分し、普段の授業やテストで特に苦手になっているものを集中的に扱うほか、過去の入試問題なども題材に、合否の明暗を分ける問題を数多くこなし、受験に必要な実力を養います。真剣勝負に挑む中学生たちの姿勢も大きな刺激になることでしょう。

		1時限	2時限	3時限	4時限	5時限	6時限	
小6夏季特訓合宿	国語	各70分 ×6コマ	論説文① 事実と意見	論説文② 話題・要旨	小説① 人物と心情	小説② 場面と主題	随筆① 経験と感想	随筆② 主題
	算数A	各70分 ×4コマ	消去算 年齢算	つるかめ算 面積図	相当算 仕事算	旅人算 通過算		
	算数B	各70分 ×4コマ	差集め算 過不足算	食塩水 売買損益	分配算 ニュートン算	流水算 時計算		
	理科	各70分 ×6コマ	てこ①	てこ②	滑車①	滑車②	りんじく①	りんじく②
	社会	各70分 ×6コマ	地理小問演習 ①	地理小問演習 ②	歴史小問演習 ①	歴史小問演習 ②	公民小問演習 ①	公民小問演習 ②

※ 上記は昨年の実施例です。夏季講習での進捗や定着度などを考慮してカリキュラムは変更される場合があります。

《国語》

入試問題では幅広いテーマの文章が出題され、受験生の思考力・記述力が試されます。その場しのぎで答案を埋めようとするのではなく、普段から様々なことに興味を持ち、読解の手助けともなる背景知識を養うことが重要です。そのために合宿ではいくつかの入試頻出テーマに絞って、普段より少し時間をかけて文章を読み解きます。また何が問われているのか「出題者の意図」を正確にとらえ、設問条件（解答形式・字数など）に合った形で解答をまとめていく訓練を数多く重ねます。

また国語力の前提となるのは豊かな言葉の知識であることは言うまでもありません。夏季講習と連動して漢字や熟語、慣用句やことわざなどについても、演習形式で意味や用法を確認していきます。

《社会》

地理・歴史・公民の各分野の一問一答問題を数多くこなし、受験生として備えておくべき基本的な知識から入試頻出の重要語句までを確認します。

よく似ていて紛らわしい語句の区別・整理、言葉だけでなく地図上での位置の把握、正確な漢字での表記など、得点力に直結する部分を徹底的に鍛えます。知っていることなのに、問題での問われ方が少し変わっただけで答えられなかった…ということのないように、様々な形式の問題に触れ、設問への読解力を養います。意味や関連を説明する記述問題についても扱い、最終夜の『合宿GP』で定着度を測ります。

《算数》

一般に入試問題の構成は、基本が40～50%、応用・発展が10～20%、残りの30～50%が基本を組み合わせたテキスト標準レベルの問題です。合格最低点がおおよそ60～65%であることを考えると、基本問題を取りこぼさないことに加え、この標準問題の出来が合否の明暗を分けるといえます。確実に得点を重ねていくためには、速く正確な計算力と基本一行問題（単位・速さ・比・割合）への習熟が必須です。

合宿では短期集中学習の特性を活かし、この基本問題の徹底演習を軸に据えます。8時限の授業をAとBに分け、それぞれ「比と割合」「和と差の文章題」を集中的に扱います。夏季講習カリキュラムと連動し、9月以降の入試問題演習につなげていく実践的な内容です。

《理科》

毎年、受験生の多くが苦手とする計算問題、中でも多くの学校で出題される「てこ・滑車・りんじく」に絞って「力」（物理）分野の克服に重点を置きます。

「力」の問題は示されたいくつかの要素を漏らさずに式をつくり、正しい手順で計算していくことが求められますが、最近の入試問題では難解なものは減少し、標準的な計算問題の出題が増えています。「何となくニガテ」なまま勝負を避けることなく、解ける問題を確実に得点にしていくことで、ライバルに差をつけることが出来るでしょう。

合宿ではもう一度、イチから手順を確認します。まずは基本問題をミスなく解いていくことから始めましょう。